

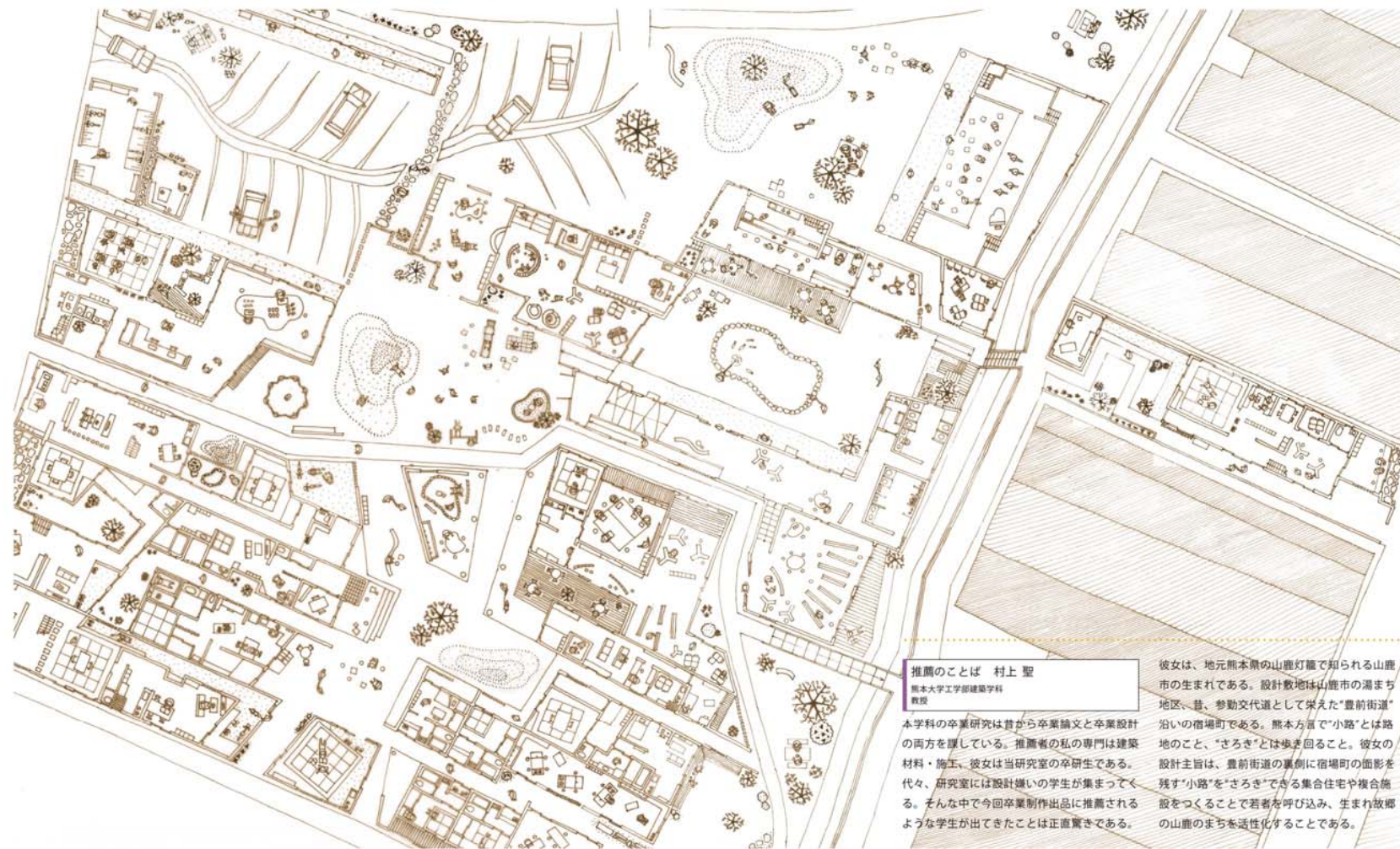
豊前街道 小路さろき

田口 紅音



制作データ

作品総数 1(2枚/A1×7 concept book(三二絵本))  
 制作日数 構想2ヵ月 制作1ヵ月  
 費用 約3万円  
 制作環境 Illustrator、Photoshop、手書き



設計概要 たくさんの費用と努力をかけて、建物の表層を綺麗で立派な状態に維持していくことも、きっと重要なこと。けれど、そのもつと奥にある大切な何かは、それだけでは守ることができない。度々更新されてゆく可並み保全事業のマニュアルには載らない、まちに息づく人々の確かな暮らし。いつのまにか置いてけぼりにされたそれらを、次の世代にも伝えていくための方法を考える。

舞台は熊本県山鹿市。観光地となった豊前街道の裏側にひっそりと位置する、とある場所。そこに、山鹿の人々の暮らしに欠かせない生活路地「小路」をいくつも通し、そのままに多様な「キノウ」を持つ建築を配置する。小路とキノウが掛け合わさって生まれる、この土地ならではの多様な「アクティビティ」。あちこちで発生した小さなそれらは小路を介して敷地全体へ、さらにはまち全体へと広がって、随所で山鹿の暮らしがみられるようになる。

小路をさろく(=うろろろする)という、山鹿に暮らす人なら誰もが行う何気ない動作。そんな極めて日常的なことが、知らず知らずのうちに自分のまちを守ることに繋がっていく。

制作テーマについて 次の時代を生きることもたちに教えてあげたいこと・見せてあげたいものは何かと考えたとき、私にとってそれは大好きなまちのありふれた日常です。毎日を丁寧に、自分らしく暮らしている人がたくさんいるまちは、何か特別なものがなくても輝いています。そんな山鹿がいつまでも続くようにとの想いを込め、やわらかい提案を目指しました。

推薦のこぼ 村上 聖  
 熊本大学工学部建築学科  
 教授

本学科の卒業研究は昔から卒業論文と卒業設計の両方を課している。推薦者の私の専門は建築材料・施工、彼女は当研究室の卒業生である。代々、研究室には設計嫌いの学生が集まってくる。そんな中で今回卒業制作作品に推薦されるような学生が出てきたことは正直驚きである。

彼女は、地元熊本県の山鹿町で知られる山鹿市の生まれである。設計地は山鹿市の湯まち地区、昔、参勤交代道として栄えた「豊前街道」沿いの宿場町である。熊本方言で「小路」とは路地のこと、「さろき」とは歩き回ること。彼女の設計主旨は、豊前街道の裏側に宿場町の面影を残す「小路」を「さろき」できる集合住宅や複合施設をつくることで若者呼び込み、生まれ故郷の山鹿のまちを活性化することである。

繊細でやわらかい描画の中、一児の母である彼女の芯の強さが骨太の平面計画に表れている。構造は壁式RC造であり、まっすぐに延びたコンクリートの壁面が年を重ねるにつれてまわりに馴染んでいく未来を感じる。きっとここに移り住む若者家族にとって、建物の織りなす隅だまりの陰影が故郷の思い出として切り絵のように記憶に残っていくであろう。彼女の設計に掛けた思いもこのようであるに違いない。

